



誰にでも起きるSNSのトラブル

振り込め詐欺の事件は、防止について宣伝しても、警察が取り締まっても、年々被害額は増大しています。自分は振り込め詐欺に遭わないと信じていても、事件は後を絶ちません。ネットやSNSによる被害や加害防止について、学校で指導しても、ニュースで取り上げても増え続けています。

誰しもが気を付けていても無くならないのは、各種事件は自分とは関係ないと思っている人が多いからでしょう。ほとんどの家庭で、子どもにスマホを使わせるときに、「ネットで悪口など書き込みに気を付けなさいよ。」「夜遅くまで使わないでね。」と言い聞かせていることと思います。しかし、子ども達は自分が行っていることを客観的に見られないのです。

スマホを使って半年までが大事

小中学生のトラブルの多くは、使い始めて半年以内に起きることが多いです。スマホやアプリの使い方覚え、LINEの友達も増え、楽しくなってきた頃です。私(校長)の身近なところ(本校ではありません)で起きたSNSによるトラブルを紹介します。

○ゲーム掲示板で仲の良い友達と何となく会話して書き込んだ「学校に来るん?」という内容が、**友達と仲が悪くなり、6ヶ月過ぎてから問題**となった。保護者は、スクリーンショットを撮り、この言葉がきっかけで学校に行けなくなったと相手を責めた。

○塾で他校の女子生徒とLINEのID交換をしたが、その**IDが知らない友達まで流され**、知らない男子が女子生徒を夜間に呼び出しをするようになった。

○SNSの書き込みを見た母親が心配になり、会話を止めさせようと自分の**子どもになりすまして書き込んだ**。本人は知らないうちに孤立していった。その結果、学校に行きづらくなった。



OLINE仲間に家族の人が言った友達の**批判する会話の内容を書き込んだ**ことが、複数のLINEを経由して、当事者まで伝わり



トラブルになった。伝えた子どもは、悪口の書き込みを善意と思って伝えたのが、トラブルを大きくした。

○保護者から学校への電話で、「私(母親)のことで、〇〇の情報が流れているのですが、どうにかなりませんか」と。親同士のトラブルを学校に相談してきた。

これらを見ていると、誤った正義感が友達関係を崩したり、仲の良いときは軽く流せた書き込みが、仲が悪くなったとたんに過去の発言をいじめととらえたり、親の過剰な心配がかえってトラブルを拡大させたりした例もあります。



SNSの書き込みでは発言内容は残ります。前後の会話を抜いたら悪口ともとらえられます。LINEやTwitterのIDを削除すると発言内容は消えますが、スクリーンショットされて拡散することもあります。LINE等は大変便利ですが、その分リスクも抱えていることを機会を見て、お子さんに話してあげてください。



おぜのかみさま